

「RF-S レンズ」初の超広角ズームレンズ“RF-S10-18mm F4.5-6.3 IS STM”を発売 広い画角を生かした多彩な撮影表現を手軽に実現

キヤノンは、APS-C サイズカメラ用「RF-S レンズ」の新製品として、「RF-S レンズ」初の超広角ズームレンズ“RF-S10-18mm F4.5-6.3 IS STM”を2023年12月上旬に発売します。



RF-S10-18mm F4.5-6.3 IS STM



広い画角を生かした表現が可能



携帯性に優れた小型・軽量設計

“RF-S10-18mm F4.5-6.3 IS STM”は、広い画角を生かした多彩な撮影表現を実現しながら、小型・軽量設計と高画質を両立した超広角ズームレンズです。遠近感を生かした超広角から、見た目に近い自然な画角の撮影までさまざまなシーンでの撮影を手軽に楽しむことができます。「RF-S レンズ」初の超広角ズームレンズをラインアップに加えることで、「EOS R システム」を強化し、ユーザーの多様なニーズに応えます。

■ 撮影表現の幅を広げる超広角ズームレンズ

35mm 判換算で約 16-29mm 相当をカバーすることで、標準ズームレンズでは対応できない撮影も可能です。ダイナミックな風景写真や、被写体との距離が十分にとれない狭い場所でのスナップなどの静止画撮影に加え、日常や旅先での Vlog 撮影など、動画撮影においても、広い画角を生かした多彩な表現が可能です。

■ 携帯性に優れた小型・軽量設計とズーム全域での高画質を両立

カメラ側の電子歪曲収差補正を生かした小型・軽量設計により、質量約 150g、全長約 44.9mm（収納時）の優れた携帯性を実現しています。また、2 枚の「UD レンズ^{※1}」、1 枚の「プラスチックモールド非球面レンズ」を含む 10 群 12 枚のレンズ構成により、レンズ枚数を抑えた小型・軽量設計と優れた描写性能を両立しています。さらに、「UD レンズ」の効果的な配置により、ズーム全域で色収差を補正し、画面全体での高画質を実現しています。

■ 最大撮影倍率 0.23 倍の近接撮影や快適な動画撮影を実現

AF 撮影時^{※2}に最短撮影距離 0.14m、最大撮影倍率 0.23 倍、MF 撮影時^{※3}には最短撮影距離 0.086m、最大撮影倍率 0.5 倍の近接撮影を実現しています。テーブルフォトなど被写体に近寄った撮影でも、超広角レンズならではの広い画角とボケ味を生かした撮影が可能です。さらに、リードスクリュータイプのステッピングモーター（STM）の搭載により、動画撮影時にも自然でなめらかな AF を実現し、Vlog や SNS などが高まる動画撮影ニーズに対応します。

※1. UD（Ultra Low Dispersion = 特殊低分散ガラス）を用いたレンズ。

※2. 最短撮影距離 0.14m は焦点距離 10mm-18mm 時。最大撮影倍率 0.23 倍は焦点距離 18mm 時。

※3. 最短距離撮影 0.086m、最大撮影倍率 0.5 倍は焦点距離 10mm 時。

製品名	希望小売価格	発売日
RF-S10-18mm F4.5-6.3 IS STM	オープン価格	2023 年 12 月上旬

-
- 一般の方のお問合せ先 : キヤノンお客様センター 0570-08-0002
 - EOS ホームページ : canon.jp/eos

〈“RF-S10-18mm F4.5-6.3 IS STM”の特長〉

1) 撮影表現の幅を広げる超広角ズームレンズ

- 35mm 判換算で約 16-29mm 相当をカバーすることで、標準ズームレンズでは対応できない撮影も可能。
- ダイナミックな風景写真や被写体との距離が十分にとれない狭い場所でのスナップなどの静止画撮影に加え、日常や旅先での Vlog 撮影など動画撮影においても、超広角を生かした多彩な表現が可能。



焦点距離 10mm
(35mm 判換算約 16mm 相当)



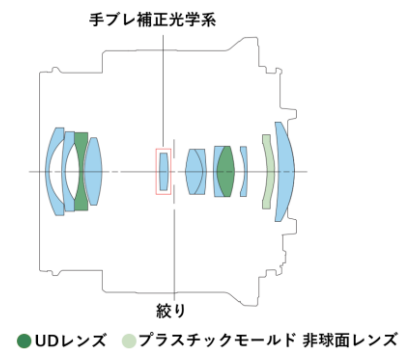
焦点距離 18mm
(35mm 判換算約 29mm 相当)



旅先や日常の Vlog 撮影にも好適

2) 携帯性に優れた小型・軽量設計とズーム全域での高画質を両立

- カメラ側の電子歪曲収差補正を生かした小型・軽量設計により、質量約 150 g、全長約 44.9mm (収納時) の優れた携帯性を実現。
- 「EF-S10-18mm F4.5-5.6 IS STM」(2014 年 5 月発売) と比較して、全長約 37.6%の短縮化と質量約 37.5%の軽量化を達成。
- 2 枚の「UD レンズ」、1 枚の「プラスチックモールド非球面レンズ」を含む 10 群 12 枚のレンズ構成により、レンズ枚数を抑えた小型・軽量設計と優れた描写性能を両立。
- 「UD レンズ」の効果的な配置により、ズーム全域で色収差を補正し、画面全体での高画質を実現。
- レンズ形状とコーティングの適正化により、レンズ内の光の反射が撮影画像に入り込んでしまうフレアやゴーストの発生を低減。



RF-S10-18mm F4.5-6.3 IS STM の光学構成図 (焦点距離 10mm 時)

3) 最大撮影倍率 0.23 倍の近接撮影や快適な動画撮影を実現

- AF 撮影時に最短撮影距離 0.14m、最大撮影倍率 0.23 倍、MF 撮影時には最短撮影距離 0.086m、最大撮影倍率 0.5 倍の近接撮影を実現。テーブルフォトなど被写体に近寄った撮影でも、超広角レンズならではの広い画角とボケ味を生かした撮影が可能。
- リードスクリュータイプのステップモーター (STM) の搭載により、動画撮影時にも自然でなめらかな AF を実現し、Vlog や SNS などが高まる動画撮影ニーズに対応。
- 動画撮影中のフォーカス操作によって生じる画角変動を、カメラで電子的に補正する「フォーカスブリージング補正^{※1}」に対応。



近接撮影も可能な超広角ズームレンズ

※1. フォーカスブリージング補正機能を搭載したカメラ装着時。動画撮影モードでのみ使用可能。

4) 手ブレ補正機構搭載により鮮明な静止画・動画撮影が可能

- レンズ内光学式手ブレ補正機構により、4.0 段^{※1}の手ブレ補正効果を発揮。
- ボディー内手ブレ補正機構を搭載している EOS R シリーズのカメラ^{※2}との組み合わせではカメラとレンズの協調制御により、6.0 段^{※3}の手ブレ補正効果を実現。
- 低速シャッターでの夜景撮影や、歩きながらの撮影などの手ブレしやすいシーンでも手ブレを抑えた撮影が可能。
- 動画電子 IS^{※4}との協調制御により、動画撮影時に強力な手ブレ補正効果を発揮。

※1. 焦点距離 18mm、「EOS R10」（2022 年 7 月発売）使用时、CIPA 規格に準拠（Yaw/Pitch 方向）。

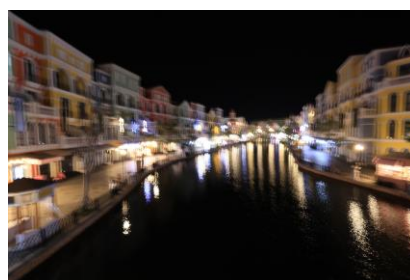
※2. 協調制御対応カメラはキヤノン公式 WEB サイトをご確認ください。

※3. 焦点距離 18mm、「EOS R7」（2022 年 6 月発売）使用时、CIPA 規格に準拠（Yaw/Pitch 方向）。

※4. 動画電子 IS 使用時は、撮影範囲が狭くなります。



手ブレ補正 ON



手ブレ補正 OFF

（「EOS R50」で撮影、焦点距離 10mm、1/2 秒、F6.3、ISO800）

〈製品仕様について〉

製品仕様の詳細はキヤノンホームページをご参照ください。

<https://cweb.canon.jp/eos/rf/lineup/rf-s10-18-f45-63/>

〈ご参考：環境に配慮した取り組み〉

キヤノンは、従来の包装設計思想を維持しながら、包装材の脱プラスチック対応を進めています^{※1}。“RF-S10-18mm F4.5-6.3 IS STM”では、キヤノンのレンズ製品で初めて、植物由来の不織布や紙を原材料とする包装材を使用する工夫を行っています。

※1. コーティング素材は除く。



包装材の脱プラスチック対応を推進